

能勢町新生涯学習センター整備について

1. 整備の背景と現状の課題

能勢町では、2045年には高齢者比率が約7割に達すると推計されるなど、人口減少と少子高齢化が急速に進んでいます。これに伴い、耕作放棄地の拡大や地域活力の低下といった、住民生活に影響を及ぼす多くの課題が存在しています。

教育委員会では、こうした状況に対応し、老朽化した生涯学習センターを旧久佐々小学校体育館（敬愛舎）へ移転し、これまで図書室として運営してきた施設を図書館法に基づく「図書館」へと移行する計画を進めています。

2. 新たな生涯学習センターの目指すもの（基本理念）

新たな生涯学習センターは、単なる本の貸し借りを行う施設ではなく、町の未来を築くための「知と交流の拠点」としての整備を目指します。

基本理念	目的
学びの深化と生活の質の向上	地域の知的資産を守り、ライフステージに応じた学びの場を提供することで、住民一人ひとりの人生を豊かにし、生活の質を向上させる。
多世代交流と地域コミュニティの活性化	多様な世代が集い、対話が生まれる場を創出することで、地域コミュニティの維持・活性化につなげる。
地域価値の向上と情報発信	本町の魅力を発信し、外部とのつながりを生み出すことで、地域の価値を向上させる。

3. 新たな生涯学習センター整備の基本方針

図書館法（昭和25年制定）の目的である「住民の学び・文化・社会参加を支える場」の実現に向け、以下の機能を強化します。

①図書・資料サービス機能の充実

- ライフステージに応じた多様な学習機能の提供を強化する。
- 利用者の知的好奇心を刺激する資料室機能の充実を図る。
- 郷土資料の保存・活用方法を具体化し、地域の歴史・文化を継承する。
- デジタル資料の導入を検討し、未来の図書館像を設計する。

②多様な世代の交流機能の充実

- 多世代が集える空間づくりと、高齢者・子育て世代の利用に配慮した場の提供を行う。
- 地域コミュニティの核として機能し、対話と協働を促進する。

③住民参加と情報発信

- 住民の声を反映させるため、「のせのセッション」ワークショップを通じて意見収集を行う。（第1回12月13日開催）
- 情報発信ツールとしてInstagramアカウント「のせのセッション」を開設し、積極的な

情報公開と住民との意見交換を展開する。

4. 整備の意義

人口減少が進む本町において、図書館の整備は、町の存続を支える「未来への投資」となります。新たな生涯学習センターは、単なる施設整備ではなく、地域の未来を築く場として、持続可能なまちづくりの要と位置づけています。

5. 施設整備のスケジュール

令和 7 年度～8 年度 基本構想・基本計画の策定

令和 8 年度～9 年度 設計業務

令和 10 年度 改修工事

令和 11 年度 施設開館